

～院長室から～
医師の権利
 院長 与芝 真彰

新任のご挨拶
 整形外科部長 川野 健一

新任医師のご紹介

放射線科紹介
 医長 伊藤 治彦

News & News

●第8回せんぼ医療感染講習会
 「予防接種の最近の話題」
 開催報告

●「循環器センター
 心臓血管外科新体制の会」
 が開催されました。

vol.25
 2009.7.1

せんぼだより
 うえーぶ
Wave



せんぼ
東京高輪病院
 地域医療連絡室

〒108-8606
 東京都港区高輪3丁目10番11号
 tel:03-3443-9576 fax:03-3443-9570
 URL:http://www.sempos.or.jp/tokyo

病院理念

私たちは、病に苦しむ人や障害に悩む人に科学的根拠に基づく最善の先進的医療を迅速かつ安全に提供するとともに、人権と個人情報の保護を心がけ、相互信頼に基づく快適な医療の実践に努めます。 せんぼ東京高輪病院

～院長室から～

医師の権利

せんぼ東京高輪病院
 院長

よしぼ しんしょう
 与芝 真彰



1999年都立広尾病院の点滴事故、同年横浜市大での患者取り違い事故、2001年の東京女子医大心臓手術事故でのカルテ改ざん、2002年慈恵医大青戸病院での腹腔鏡下前立腺手術事故、2004年私の所属していた昭和大学藤が丘病院の腹腔鏡下副腎摘出手術事故など、医療側の不手際による大きな医療事故が相次ぎ、医療不信が大きく顕在化しました。それまでは権威ありとされていた病院長、副院長達がテレビに登場し、マスコミの厳しい追及の前にベコベコと頭を下げるみじめな姿をさらしたものです。私もその一人でした。

それを契機に、患者さんの権利が声高に主張されるようになりました。現在はほとんど全ての病院のホームページないし院内掲示として、多項目に渡って「患者様の権利」が記載されています。患者様の権利が最優先に尊重される、病院にとってはつらい時代になりました。

また、小泉内閣の骨太の方針のもとに毎年2,200億円の医療費削減が実行され、基幹大病院の経営はますます厳しくなっています。一人でも多くの患者さんを確保しなければ経営が立ちいかない病院も多く、ひと昔前に徳洲会病院が始めた時には見向きもされなかった365日24時間対応のER（1次、2次救急）の設置が当たり前となっています。

患者さんには深夜でも高質の医療を受ける権利があり、きちんと対応するのが当たり前、少しでも患者さんに不都合な結果になれば訴訟、そんな「クレマー」が増えていきます。しかし、この深夜の救急医療を支えている医療側の生活実態を患者さんはわかっているのでしょうか？ 患者の権利を声高に主張する患者団体も医師や看護師の権利にはほとんど理解はありません。

憲法25条は日本人の生存権を規定しています。すべ

ての国民は健康で文化的な最低限度の生活を営む権利を有するとあります。これを根拠に生活保護、医療保護があるわけですが、我が国の救急や外科、産科に就事している医師には、この権利が保障されているとはどうてい思えません。看護師は二交代、三交代の交代制がありますが、医師にはそれはありません。場合により救急診療に引き継いで24時間、48時間の連続勤務を強いられる事もあります。当院にもそれに近い状況の医師もいます。

元来、我が国の医師には自らの権利意識が薄弱だったと思います。私の若い頃は大学病院の医局に入局すると「お前らには人権はない」と宣言され、患者が重症になれば主治医は泊り込んで診療するのは当然で、また、日中は教育と診療、夜は研究や論文執筆、休日はアルバイトで生活費稼ぎと家庭生活を顧みるゆとりもない非文化的生活を強いられたものです。我が国の医療は憲法の保証する生存権すら保証されない医師の自己犠牲に基いて成り立ってきたのです。それでも昔は患者さん達が医師に感謝してくださり、多少の失敗でも一生懸命に診療すれば勘弁してくれたものでした。それで頑張れたのだと思います。

現在は深夜に無料の救急車で乗りつけ、高度の診療を要求し、その恩恵を感謝もしない患者を最低の生存権すら保障されない医師が診療しています。日本とはどんな文化国家なのでしょう？

医師は自らの権利は主張しませんが、その権利は外科、産科、救急科など、文化的な最低生活も送れず訴訟リスクの高い診療科の医師にはならない事で行使されています。患者の権利意識が医師の権利意識を目覚めさせ、それが医療崩壊につながっているとしたら何とも皮肉な結果ではありませんか。

新任のご挨拶

整形外科部長 かわの 川野 けんいち 健一



平成21年4月1日付で当院に赴任いたしました川野健一と申します。

高輪の地に来てもう数ヶ月が経とうとしております。歳をとるにつれ、新環境に慣れるのに時間がかかり、やっと地に足が付き始めたところですが、ひと言ご挨拶さし上げたいと思います。

私は大学卒業後、平成3年に東京大学整形外科に入局いたしました。その後、東大病院をはじめ湯河原厚生年金病院、旭中央病院、東京都立広尾病院など医局の関連病院に勤務し、整形外科の各分野を幅広く経験し、研鑽を積むことができました。計7年間在籍した東大病院を除けば、この病院が6つ目の赴任先となります。

そもそも整形外科は、骨折などの外傷治療を本流とする科ですが、近年では、脊椎脊髄外科、リウマチ、小児整形、スポーツ整形外科など各分野の専門分化が進み、学会、研究会が乱立している状態です。膝関節学会、肩関節学会など四肢の大関節ごとに学会が存在します。私は東大在学時より整形外科のなかでも神経疾患の診断と治療に興味を持ち、入局以後、外傷性腕神経叢麻痺、手根管症候群、肘部管症候群などの末梢神経障害の診断治療ならびに上肢機能再建

外科をテーマとして診療、研究に従事してまいりました。

当院は従来、腕神経叢麻痺診療においては都内有数の病院の一つであります。中川種史副院長をはじめ、非常勤医として原徹也先生、高橋雅足先生など私の大学医局研究班の先輩方が勤務されており、機能再建術後のリハビリスタッフや施設も充実していますので、自分の専門分野を生かせる環境としては申し分ないと思えます。

現在、東京都では約60名の「日本整形外科学会手の外科専門医」が登録されておりますが、当科ほど多くの専門医が集結する病院も少ないので、この「手の外科」分野での診療を精力的に行っていきたいと考えております。

平成20年度の当科の手術実績は、総数458件でしたが、その内訳は骨折を含めた一般外傷181件、手の外科関連手術112件、脊椎手術35件、人工関節手術（人工骨頭置換術を除く）11件、膝関節手術23件などです。当科にはスポーツ、膝関節障害、脊椎外科を得意とするスタッフも在籍しており、スタッフ一同協力して、整形外科の根幹である外傷診療のみならず整形外科の幅広い分野で地域医療に貢献したいと考えております。今後ともよろしくお願いいたします。

新任医師のご紹介

平成21年5月付



きむ みにる
金 民日
内科医長 (消化器・肝臓)



いし ゆうすけ
石 雄介
内科後期研修医

放射線科紹介

放射線科医長 伊藤 治彦



放射線科の概要

せんぽ東京高輪病院放射線科のスタッフは常勤医師1名、非常勤医師4名、診療放射線技師12名、受付2名にて診療業務を行っております。常勤医はこの4月から赴任しました。放射線科専門医、検診マンモグラフィ読影認定医です。3月までは東大にて肺結節のコンピュータ支援診断に関する研究を行っていました。

放射線機器設備は地下1階に心臓血管撮影装置、核医学検査装置があり、1階には骨一般撮影装置、胸腹部撮影装置、乳房撮影装置、骨密度撮影装置、X線TV装置、CT装置、MRI装置があります。また、7階健康管理センターには胸部撮影装置、X線TV装置4台があります。CT検査は多列検出器を備えたヘリカルCT装置により、詳細な画像と3次元画像が得られ、診断に寄与しています。MRI装置は1.5Tの強磁場により、良好な画像を提供しています。夜間、休日、当直技師を配置し、診断・治療に不可欠な緊急検査が行える体制をとっています。

また、この4月より東芝製PACS装置（医療用画像保存・通信システム）を導入、稼動しております。PACSとは、

Picture Archiving and Communication Systemsの略称であり、X線写真、CT、MRIなどの医療用画像をデジタルデータとしてネットワーク上で管理するシステムのことで、このシステムにより、フィルムの現像、運搬及び保管が不要となり、撮影された画像を院内の各診療端末で撮影後すぐに確認することが可能となります。現在のところ院内ではCT検査、MRI検査、核医学検査に関してフィルムレス運用を開始いたしました。現在、単純写真に関してはフィルムが残っておりますが、将来的には単純写真も含めたフィルムレス化を目指しています。

業務内容

撮影は、午前中は検診業務主体、午後は病院業務が主体です。検診においては胸部撮影、上部消化管造影検査、胸部CT検査、頭部MRI検査、マンモグラフィ検査を行っております。

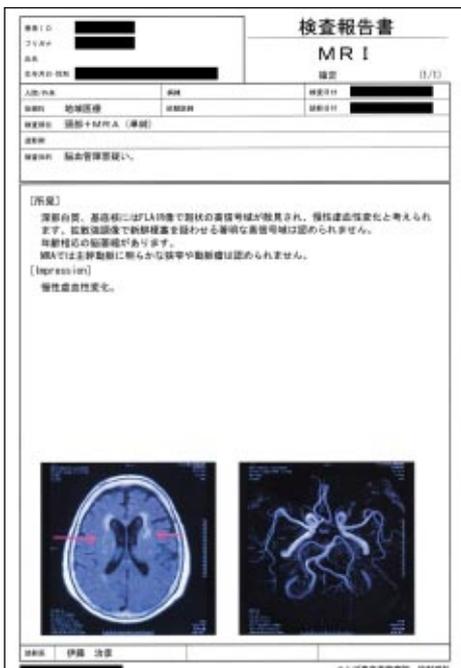
読影はCT検査、MRI検査、核医学検査に関しては基本的に翌診療日までに報告書を作成しています。PACS導入により、キー画像を添付した報告書を作成することが可能となり、ご依頼の先生方によりわかりやすい報告書を提供できるようになりました。

紹介件数

現在、地域の診療所の先生方より、CT検査、MRI検査、核医学検査、マンモグラフィ検査、骨密度検査のご依頼をいただいております。4月、5月のご依頼件数は、CT検査16件/月、MRI検査22件/月、マンモグラフィ検査1件/月でした。今後とも引き続きご依頼のほどよろしくお願い申し上げます。また、画像情報に関しては、フィルム

以外にもCD-Rでの画像提供も行っておりますので、お気軽にお申しつけください。

地域の先生方、患者様方が放射線室を気兼ねなく自由にご利用できるよう、今後ともスタッフ一同努力してまいりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。



「検査報告書」記載例



放射線科読影室

第8回

せんぼ医療感染講習会 「予防接種の最近の話題」開催報告

5月14日午後7時から行われました。新型インフルエンザの影響で、感染状況によっては開催できるかどうか危惧されていましたが、心配された感染拡大もなく予定どおり実施することができました。今回はこれまでのせんぼ医療感染講習会でも話題にのぼっていたワクチンの最新事情がテーマでした。先進諸国や世界から見て、遅れが指摘されている我が国の予防接種状況について、日本赤十字社医療センター小児科顧問 菌部友良先生に講演いただきました。外部からは医療機関や保育園、小学校、各企業の保健担当者など35名の方々にご参加いただきました。



「循環器センター心臓血管外科新体制の会」 が開催報告されました。

「循環器センター心臓血管外科新体制の会」が開催されました。

前回のうえぶ 24号にてご紹介いたしました心臓血管外科の新たなスタートにあたり、さる6月22日、ザ・プリンスさくらタワー東京にて「せんぼ東京高輪病院循環器センター心臓血管外科新体制の会」が開催されました。

当日はご多忙の中にもかかわらず、港区医師会副会長古野先生、東京女子医科大学宮崎学長をはじめ関連する病院、医療機関から多数の先生方にお集まりいただきました。会は2部構成で行われ、第1部の懇話会では与芝院長のあいさつではじまり、港区医師会副会長古野先生、東京女子医科大学宮崎学長、同じく腎臓外科寺岡教授から来賓あいさつをいただきました。その後、循環器内科・

心臓血管外科の医師が改めて紹介され、続いて山本循環器内科部長の司会により、川合心臓血管外科部長が「発生機序に基づいた新しい心房細動の外科治療」と題した講演が行われました。

引き続き行われた第2部の懇親会では、地域医療連絡室長でもある小山副院長のあいさつのおとご来賓の港区医師会高輪地区世話人渡辺先生の乾杯のご発声で開始されました。循環器内科・心臓血管外科スタッフが日ごろお世話になっております地域の先生方と歓談し、中川副院長の中締めまでなごやかな雰囲気の中で、循環器センター新体制が新たなスタートをきることができました。今後ともよろしく願いいたします。



港区医師会副会長古野先生



東京女子医大宮崎学長



院長あいさつ



川合部長講演

編集後記



景気回復の兆しの見えないなか、5月は新型インフルエンザ発生のダブルパンチでした。マスク不足から始まり、パンデミックに備えての発熱外来の設置準備やトリアージの方法策定など、あわただしいひと月でした。梅雨に入りマスコミの報道もようやく落ち着いたようです。とはいえ全国では6月15日の時点で700人を超える感染者が続いており、港区でも発生したとのことまだまだ油断できない状況です。平成21年も折り返しを過ぎるところです。今年の後半は少しでもいいニュースが聞きたいものです。